

MISIA

第7回アフリカ開発会議(TICAD7)

名誉大使活動レポート

一般財団法人mudef



第7回アフリカ開発会議 (TICAD7)

- 日程 2019年8月28日（水）～30日（金）
- 会場 パシフィコ横浜
- 出席者 約10,000人
 - ・ 42名の首脳級を含むアフリカ53か国
 - ・ 52か国の開発パートナー諸国
 - ・ 108の国際機関及び地域機関の代表
 - ・ 民間セクターやNGO等市民社会の代表等
- テーマ 「アフリカに躍進を！ひと、技術、イノベーションで。」
- 成果 「横浜宣言2019」を採択し「横浜行動計画2019」を発表



(外務省、横浜市HP参照)

MISIAと TICAD7名誉大使就任



➤ MISIA（歌手）

長崎県出身。グローバルな知性を持つ、アジアを代表する歌手。

1998年デビュー曲『つつみ込むように…』が大ヒットし、音楽シーンに衝撃を与える。2000年のバラード『Everything』で国民的人気歌手となり、2004年には女性アーティストとして初めて5大ドームツアーを敢行。アジアにも進出し大成功を収めた。

以降、J-POPの枠にとらわれることなくチャレンジを続けている。

また社会貢献活動にも積極的で、2007年にU2のボノの言葉をきっかけにアフリカ・ケニアを訪問。2010年に「音楽とアート」を通じて地球規模の課題解決を目指す「一般財団法人mudef（ミューデフ）」を賛同するアーティストと設立し、理事として参画。

mudefを通してアフリカのスラムに住む子どもたちの教育サポートを行うとともに、マラリア予防のための蚊帳の配布、水分野での活動を通じ、アフリカに関わり続けている。

➤ 就任

2018年10月6日に東京で開かれたTICAD閣僚会合で河野外務大臣よりTICAD7名誉大使に委嘱された。

TICADの名誉大使は2013年の第5回開催に続き2回目。

「国内での知名度が高く、アフリカのための社会貢献活動の実績があり、TICAD Vで名誉大使を務めるなど、日本国民一般のアフリカへの関心を高めるのに適任とされたため、今回、アーティストであり、歌手のMISIA氏を外務省からTICAD7名誉大使として委嘱するに至りました。」（外務省HPより）

TICAD7名誉大使就任 スピーチ



＊ ＊ MISIA就任スピーチ日本語訳 ＊ ＊

こんばんは。ご紹介をいただきました名誉大使のMISIAです。

今回のTICADは7回目。そこで、アフリカと私の7つの出会いをお話します。

1つ目はソウルミュージックとの出会い。私はアフリカンミュージックに大きな影響を受けてきました。

2つ目は、アフリカの国々。2007年に初めてケニアを訪れて以降、様々な国を訪ねました。「アフリカの水を飲んだ者は再びアフリカを訪れる」という言葉がありますが、まさに私のことです。

3つ目は、色彩豊かな文化やファッションとの出会い。

4つ目は、人々から受け取るメッセージ。アフリカで聞いた言葉に「音楽があるところに戦いはない」というものがあります。歌い合うことは平和を祈り合うことです。

5つ目は、子どもと教育との出会い。私は子どもたちの教育支援は11年続けています。ある少女は言いました。「学んだことは盗まれない」と。学びは財産です。

6つ目は、音楽の力。アフリカがテーマのライブを開催したいと思っています。私も理事を務める団体の名はmudef。「MUSIC DESIGN FOUNDATION」です。音楽とアートは社会をより良くしていくと信じています。

そして最後の7つ目は、TICAD。アフリカに「山と山は会えないが、人と人は会うことができる」という諺があります。私たちは出会い、関係を築いていく、というメッセージに聞こえます。

人生は、生活は、そして命は続いていく。TICADでの出会いがより良い未来に繋がりますように。

TICAD7名誉大使就任 スピーチ



＊ ＊ MISIA就任スピーチ ＊ ＊

Good evening, I am TICAD Honorary Ambassador MISIA.

This is the seventh TICAD. So, I'd like to talk about my seven encounters in Africa.

The first is the SOUL MUSIC. African music is what has influenced me the most.

The second is the countries. In 2007 I visited Kenya and since then I've been to many countries. "Those who drink the water of Africa will return", well, that is definitely me!

The third is the vibrant culture and fashion.

The fourth is the messages from the people. It is said that "Wherever there is music, there is never any fighting". Singing together is a prayer for peace.

The fifth is the children and education. I've been supporting education for eleven years. A girl once told me "I learned a lot. It can't be stolen." Learning is an asset.

The sixth is the power of the music. I'd like to do a live show with the theme of Africa. I'm the chair of a group called mudef, the "MUSIC DESIGN FOUNDATION". I believe that we can make a better society through music and art.

And the seventh is TICAD. There is an Africa proverb, "Mountains don't meet, people do". I think this is the message that we are meeting and building relations.

Life is going on and on. I trust that our TICAD meeting will lead us to a great future!

名誉大使としての活動



- 楽曲「AMAZING LIFE」のイメージソング起用
- 初の絵本「ハートのレオナ」を執筆・発売
- アフリカをテーマにした全国大学での講演会
- JICA（国際協力機構）ミッションでのザンビア共和国訪問
- TICAD7公式サイドイベント
「TICAD7 LIVE HEART FOR AFRICA」への出演
- アフリカに関する啓発活動を目的としたメディア・媒体露出

TICAD 7 イメージソング 「AMAZING LIFE」

MISIA理事の楽曲が
TICAD7のイメージソングに起用された

＊ ＊ MISIA コメント ＊ ＊

「AMAZING LIFE」は、同じこの世界に一つ一つ個性の違う命が息づく素晴らしさを、そしてそれらが繋がりあっている素晴らしさを伝えたくて作った歌です。

アフリカには50カ国以上の国があり、人や文化、

自然や野生動物、音楽や伝統など、まさに多くのAmazing Lifeが息づく大陸。

そんなアフリカのことを、そんなアフリカの国々が集うT I C A Dのことを、ぜひ多くの方に知っていただきたいです。

未来へ多くのAmazing Life が繋がっていきますことを願っております。

MISIA

- 2018年12月26日発売のニューアルバム「Life is going on and on」収録曲。
- クラシック、アフリカン、ラテン、ソウル、ゴスペルと様々な音楽ジャンルが混ざり合い、歌唱力が最大限に活かされた壮大な楽曲。
- 現在放送中のNHK「ダーウィンが来た！生きもの新伝説」のテーマソングとしても起用されている。

絵本「ハートのレオナ」

アフリカをテーマにしたMISIA初の絵本



作：MISIA
絵：大宮エリー
刊：主婦と生活社

- MISIA初の絵本「ハートのレオナ」が2019年7月26日に「主婦と生活社」より発売。
- おでこにハートの模様のあるライオンの女の子「レオナ」が親友のペリカン「ムワリ」とともにアフリカ大陸一周の旅に出る冒険物語。
- 「大人から子どもにまで幅広くアフリカを知ってもらうには絵本は最適だと思った」というMISIA理事の想いで出版が実現。
- MISIAが物語の構成から執筆まで担い、約1年かけて完成した。
- 絵は同じく理事で、画家としても活躍する大宮エリーが担当。
- 発売とほぼ同時に重版が決定した。
- 外務省の承認を得て、帯にはTICAD7のロゴマークを印刷。
- 売り上げの一部は日本とアフリカの子どもたちの支援に充てられる。



絵本「ハートのレオナ」

アフリカをテーマにしたMISIA初の絵本



作：MISIA

絵：大宮エリー

刊：主婦と生活社

- 絵本に登場する国や地域は、MISIAが実際に訪れた場所。
- 作品で扱われる問題や、キャラクターが発する言葉などは、MISIAが実際にアフリカで経験したもの。
- 後半にはアフリカ大陸全54カ国の紹介を掲載。専門家や外務省の監修による。
- カバー裏にはアフリカ大陸のイラストを描き、物語とともに、アフリカへの知識を深めることも目的としている。

絵本「ハートのレオナ」

アフリカをテーマにしたMISIA初の絵本



作：MISIA
絵：大宮エリー
刊：主婦と生活社

➤ Birthday Charity

- 誕生日をきっかけに子どもたちへの寄付を呼びかけるmudefのプロジェクト「Birthday Charity」とも連携。
- 公式オンラインストア「MISIA TRESOR」で絵本の購入とともに寄付を呼びかけ。
- 7、8月限定のプロジェクトで¥1,131,220の協力が集まる。



➤ 「ハートのレオナ」オリジナルグッズ

- 絵本のキャラクターを使用したオリジナルグッズも作成。
- 公式オンラインストア「MISIA TRESOR」や、MISIA理事のライブ会場などで販売。
- グッズの売り上げの一部は、絵本と同様、日本とアフリカの子どもたちの支援に充てられる。

アフリカをテーマとした 大学講演会

6月4日(火)

@上智大学

国連Weeks June 2019



- 「上智大学国連Weeks June 2019」で、講演会「MISIAが見たアフリカの教育と開発支援」を開催。TICAD7パートナー事業として上智大学とmudefが共催し、国連広報センターの協力も。
- 参加者は学生を中心に約700人。
- モデレーターにNHK国際放送局シニアディレクターの道傳愛子氏を迎え、ゲストとしてmudefの早川千晶理事も登壇。
- 冒頭、MISIAの活動を紹介する映像を放送した後、MISIAがスピーチを実施。
「今日は私が実際に見てきた、感じてきたアフリカを伝えることで、皆さんがよりリアルなアフリカを感じるお手伝いができたら」と語り、「特に教育に希望を感じた。学ぶことの重要性はアフリカの子どもたちに限ったことではなく、私たちも学ぶべきことがたくさんある。学ぶチャンスは、未来への希望。これから未来を担う皆さんには、ぜひたくさんのごこと学んで欲しい」と呼びかけた。
- 早川理事とともに行った学生との対談では「支援のゴールは？」という質問に対し「支援や自立を支えるという活動が終わったら途切れてしまう関係は寂しい。まずは友達なること。お互いを思いやり、つながっていく。みなさんも、ぜひ世界中に友達を作ってほしい」と語りかけた。
- この講演会の模様は、NHK WORLDの番組「Newsroom Tokyo」内でも特集された。



アフリカをテーマとした 大学講演会

6月25日(火)@大阪大学
6月26日(水)@東京学芸大学
with JICA



- 上智での講演をきっかけに、独立行政法人国際協力機構(JICA)の協力のもと、全国の大学での講演会「～アフリカをもっと身近に アフリカにもっとワクワクする～MISIA × JICA」がスタート。
- 絵本の内容を中心に、MISIAのスピーチと学生との質疑応答を実施。この講演会に合わせてMISIAを読み上げる絵本の特別動画も作成。
- 大阪大学
 - 吹田キャンパス 銀杏会館で実施。アフリカや途上国への関心の高い約200人の学生と、学内関係者が参加。
 - 壇上でMISIAは、「アフリカでの教育サポートを通して、教育は希望だと実感している。アフリカからも学ぶこともたくさんあります」と語った。
 - 質疑応答では、「アフリカの良さを伝えたいが、自分が見た場所の情報のみを伝えることが正しいのか迷っている」という質問が上がり「見てきたものを伝えることがリアル。聞いた相手が『もっと知りたい』と、アフリカを訪れる行動につながると素晴らしい。実際に見たことが学びとなりや心に響く。アフリカに行ったことのある人はきっと少なく、だからこそあなたのリアルな情報を伝えることはとても大切だ」とアドバイスした。
- 東京学芸大学
 - 将来教職を目指す学生が多く、この日も小学校や中学校の教師を目指す学生約150人が参加。
 - MISIAは「今回、教職に就きたい方が多いと聞き、教育とは何かを考えた。私自身もアフリカで教育を10年以上サポートし、教育とは『子供が自由に自分の意思で幸せを追求できるようにしてあげること』だと感じている。そのためには、先生となるみなさんが多くのことを知り、様々な視点を持って欲しいと思う」と呼びかけた。



アフリカをテーマとした 大学講演会

7月26日(金)@西南学院
with JICA



- 絵本「ハートのレオナ」発売の記念日には、MISIAの母校である福岡・西南学院大学で実施。
- 大学のチャペルには約500人の学生が参加。
- 登壇したMISIAは「かつての学び舎である大学でお話できることが大変嬉しい。授業後にオーディションに行き、それがデビューのきっかけともなった。とても懐かしく感じている」と学生たちに語りかけました。
- 質疑応答では、「これから挑戦したいことは？」という問いに対し、「アフリカには『music is language』という言葉があり、音楽は言葉となる。私は歌手として、音楽でコミュニケーションを取り、多くの人と繋がりたい。そうすることで友達となり、問題があったら一緒に解決し、ご飯を食べながら話をする。世界中の人とそんな関係になれば、より良い社会を築くことができ切れると思う」と答えた。
- 講演後に学生からは、「絵本ぜひ読みたいと思った」「とても勉強になった。アフリカにも行ってみたい」という前向きな言葉をいくつも聞くことができた。



JICA ミッション ザンビア視察

大使活動としての
8日間のアフリカ訪問

- TICAD7名誉大使のミッションとして、ザンビア共和国を訪問。
- mudefの浅田美代子理事も同行。
- 7月29日(月)～8月5日(月)の8日間の日程。
- TICAD 7 を契機として、日本人には未だ馴染みの薄いアフリカ大陸の「今」を知り、その経験をメディアやSNSを通して広く発信し、アフリカへの関心や理解を高めることが目的。
 - 経済成長著しいザンビアの、近代的なショッピングモールやビクトリアの滝の観光業といった「光」の部分と、未だ解決されない貧困や難民問題などの「闇」の部分の両面に触れる。
 - 「闇」の問題を解決するため、奮闘する日本人の存在があり、同時に現地の人々にその存在が必要なものとして受け入れられている事実を伝える。
- 視察協力は、JICA 本部、JICA ザンビア事務所、外務省、在ザンビア日本大使館、北海道大学、ザンビア大学、UNHCR 等。
- 視察の様子は日本テレビでも特集された。

JICA ミッション ザンビア視察

ザンビア共和国について



- 基本情報（外務省HPより）
 - 面積：752.61千平方キロメートル（日本の約2倍）
 - 人口：1,709万人
 - 首都：ルサカ
 - 民族：73部族（トンガ系，ニャンジャ系，ベンバ系，ルンダ系）
 - 言語：英語（公用語），ベンバ語，ニャンジャ語，トンガ語
 - 宗教：8割近くはキリスト教，その他 イスラム教，ヒンドゥー教，伝統宗教
- 国名は「ザンベジ川」に由来
- 1964年の独立以降安定した情勢が続いており、コンゴ民主共和国やアンゴラなどの和平仲介、難民受け入れなど、地域の平和と安定に積極的に貢献している。
- 2017年の1人あたりのGDPは1,513UDと20年前の約3倍に成長。
- 銅の産地としても有名であり、日本の10円玉などにも使われている。また南に世界三大瀑布のヴィクトリアの滝を有し、観光業も盛ん。
- 日本とも関係が深く、JICAはこれまでに多くのボランティアを派遣。日本とも関係が深く、その安定した情勢もあって、JICAはこれまでに多くのボランティアを派遣。2019年7月現在では、青年海外協力隊とシニア海外ボランティア合わせて81人が派遣されており、その数は国別で世界一位。
- 1964年の東京オリンピックでは、開会式ではイギリス領北ローデシアとして参加したが、閉会式当日の10月24日に「ザンビア共和国」として独立を宣言。選手団は開会式では「北ローデシア選手団」として、閉会式では「ザンビア選手団」として参加した縁もある。
- 一方で、中国などからの多額の借入れによる返済が財政を圧迫し、銅に依存するがゆえに他分野の発展が遅れたり、経済的な格差が広がっていたりと、負の側面も抱えている。

JICA ミッション ザンビア視察

視察スケジュール

7月29日(月)ザンビア入国
～
8月5日(日)日本帰国

- 7月30日(火) JICA事業、首都視察 @ルサカ
 - ザンビア大学獣医学部視察（北海道大学オフィス訪問）
 - NSANSA Village
 - カニャマコンパウンド（カニャマ新旧病院、コンパウンド居住区）
 - ストリートチルドレン訪問
- 7月31日(水) 難民キャンプ@メヘバ地域
 - トランジットセンター視察
 - インタビュー：ルワンダからの元難民姉妹、コンゴ民主共和国から難民一家
 - 難民キャンプ内孤児院訪問
- 8月1日(木) 難民キャンプ@メヘバ地域
 - 難民キャンプ内の中等学校、初等学校授業視察
- 8月2日(金) 観光資源視察@リビングストン、ジンバブエ共和国
 - ジンバブエ側ビクトリアの滝視察
 - ジンバブエとザンビアの国境
- 8月3日(土) 動物保護の現状視察 @リビングストン
 - 絶滅危惧種であるシロサイの保護活動視察
 - ミレットアート視察
- 8月4日(日) 動物保護の現状、児童福祉施設見学@ルサカ
 - 孤児のチーター保護施設視察
 - HOME OF MOSES 乳児院視察

JICA ミッション ザンビア視察

ザンビア大学
7月30日 (火)
@ルサカ

- 1966 年にザンビアで最初に設立された国立大学で、学生数は約4500 人。
- このうち、獣医学部は日本の無償資金協力により建設され、並行してJICA による技術協力計画がスタート。
- この計画の中で、特に北海道大学は長年にわたって多数の専門家を派遣するなど学部的发展を支え、多くの学生が北海道大学にも留学。約13 年にわたるJICA の技術協力の中で、145 名の学生が卒業し、ザンビア全国で活躍している。
- MISIA 理事と浅田理事が到着すると大勢のスタッフの出迎えを受け、学部長に挨拶したのち、スタッフの紹介や大学の説明などが行われた。
- その後、学部内の見学も実施。大学間連携として、2012 年に「北海道大学アフリカサカオフィス」が設置され、2013 年からは人間と動物に共通する感染症の共同研究がスタート。
- 今回の視察では、この「人獣共通感染症」を中心に、ウイルスを調べるための高額な機器や、視察時に隣国のコンゴ民主共和国で流行していたエボラ出血熱の研究などの説明を受けた。
- ザンビア大学は動物病院も併設されており、犬の治療の様子なども見学した。



JICA ミッション ザンビア視察

NSANSA Village
7月30日 (火)
@ルサカ

- ザンビアには約1万4000人のストリートチルドレンがいると言われており、NSANSA Village は、そのストリートチルドレンの保護や養育を行う団体として活動している。
- 現在、約60名の元ストリートチルドレンだった子どもたちがNSANSA Villageの施設で生活し、自立のためのプログラムなどを受けている。
- 子どもたちの生活環境を見学し、ベッドが置かれたり、黒板が設置されたりした建物を見ても回った。
- 施設を運営する牧師のムタレさんと、その妻で日本人の桜子さんから話を伺い、この施設でカウンセリングや教育などを行なっていることや、ストリートチルドレンの集まる場所で食料配布活動を展開していることなどの説明を受けた。
- 施設の見学後は、約40人の子どもが歌や踊りで歓迎してくれた。
- そのお返しとして、MISIA理事、浅田理事より、お菓子のプレゼントとサッカーボールが子どもたちに手渡された。



JICA ミッション ザンビア視察

ストリートチルドレン

7月30日 (火)

@ルサカ

- 午前中に訪れたNSANSA Village が支援するストリートチルドレンから話を聞くため、地元の警察も同行し、ムタレさん案内のもとで、子どもたちが集まる高架下へと徒歩で向かった。
- 線路と大きな車道が交わる高架下には、30 人を超える子どもたちが集まっており、MISIA 理事、浅田理事が訪れた際も、シンナーを吸っている子どもが何人もいた。
- シンナーは食べ物より安く手に入り、空腹や寒さを忘れさせてくれるとして、多くのストリートチルドレンが手を出している。ただ、脳や体に深刻なダメージを与える。
- NSANSA Village では、週に一度炊き出しを行い、子どもたちへ食事の提供を行っていて、そこから施設で保護することもある一方、施設の暮らしに馴染めずに路上生活に戻る子どもいるとのことだった。
- 2 人の訪問に対して、子どもたちはこの現状を変えたいと語り、MISIA 理事も「自分たちもここから抜け出すんだという強い意志を持って欲しい」と呼びかけていた。



JICA ミッション ザンビア視察

カニャマコンパウンド

7月30日 (火)

@ルサカ

- コンパウンド（無計画居住地）はザンビアの貧困層が住む地域であり、スラムとほぼ同義。今回、コンパウンドのうち、ルサカ西部にある「カニャマコンパウンド」を視察。
- ルサカには、基本的な保険サービスを提供するヘルスセンターは存在するが、手術が実施できるようなレベルの病院が圧倒的に不足している。
- そのため、現在、無償資金協力事業として、ヘルスセンターを建設する事業が進んでいる。
- 新たに、手術や産婦人科、小児科など、ある程度のレベルの医療を提供できる3つのヘルスセンターの建設を目指し、その1つが訪問したカニャマ内に完成する予定。
- 視察では、現在のヘルスセンターを訪問。それほど広くないセンターには、コンパウンドから訪れるなどした多くの患者であふれている状態だった。
- 続いて、新病院の建設を担う清水建設から説明を受け、この工事にはガーナやフィリピンなど、多様な国籍にスタッフが起用されていることや、竣工後は年間約120万人が利用できる規模になることなどの説明を受け、その後、実際の建設現場も見学した。
- 最後には、コンパウンド内を歩いて、そこに住む人々の生活を視察。コンパウンド内にあるセンタースタッフの家も訪問し、コンパウンドの暮らしに触れた。



JICA ミッション ザンビア視察

難民キャンプ
7月31日(水)
@メヘバ

➤ メヘバ難民キャンプ

- メヘバキャンプは1971年に設立され、面積は東京23区より少し広い。
- メヘバの難民キャンプの特徴は、武力紛争や人権侵害から逃れてくるいわゆる「難民」と、過去に難民として入り、その後何年、何世代にもわたって住み続けた結果、母国に帰らずザンビアへの残留を希望した「元難民」、さらに地元のザンビア人が同じ地域に存在している点にある。
- 2019年6月末現在で、難民、元難民合わせて2万4151人が居住している。
- この地域では、UNHCRなどの国連の支援とともに、JICAの草の技術協力としてNGO難民を助ける会（AAR JAPAN）支援や、青年海外協力隊や専門家の派遣など日本による支援も多く実施されている。

➤ ザンビアの難民政策の現状

- ザンビアでは、「元難民」として国が受け入れ、さらに5haの土地を与えるという施策を実施しており、その寛容さや内容は世界で注目を浴びている。
- 一方で、与えられる土地はこれまで生活していた難民キャンプとは離れた場所にあり、過去何年にもわたって居住し、コミュニティを形成してきた土地から移動しなければならない。また、5haの土地はブッシュであることが多く、一から畑を耕し、インフラを整備していく必要があるなど、すぐに自立した生活をスタートするには困難な状況であり、移動を拒否して動かない元難民が多い。
- JICAは、この状況を数年にわたって調査。難民への聞き取りなどを行い、新しい土地に移動後、これまでの環境を保ちながら生活基盤を構築するプロジェクトを新たに始めることとなっている。

JICA ミッション ザンビア視察

難民キャンプ
7月31日(水)
@メヘバ

- ルサカの空港からソルエエジという中核都市へチャーター機で飛び、さらに車で悪路をおよそ1時間半かけてメヘバに到着し、まずはUNHCRのザンビアスタッフよりメヘバキャンプやザンビアの難民政策について説明を受けた。
- トランジットセンター
 - その後視察に移り、最初に、近隣国から逃れてきたばかりの難民が、この地域での居住を得る前に一時的に住む仮設の住宅を訪問。
 - 住宅はコンテナのような作りで、中は地面がそのままの部分と、寝室として床のある部分があったものの、非常に簡素な作りだった。
- 孤児院
 - 難民キャンプ内の孤児院を視察。以前AARがオフィスとして使用していた場所を活用し、現在1歳から24歳までの子ども26人が生活しているとのことだった。
 - スタッフから、子どもたちは難民と元難民と一緒に生計を立て、また両親がいない、またはいても一緒に生活できないなど、様々な事情を抱えている現状を伺った。
 - 部屋を1つ1つ見て回り、子どもたちと挨拶や簡単な会話をし、最後に用意したお菓子や生活必需品の良理事が子どもたちに直接手渡しして、施設を後にした。



JICA ミッション ザンビア視察

難民キャンプ
7月31日(水)
@メヘバ

➤ ルワンダからの元難民姉妹

- ルワンダからの元難民の18歳と16歳の姉妹の自宅を訪問。妹は試験期間中で不在だったが、姉が応じてくれた。
- この姉妹は、もともと父母と兄弟姉妹5人の家族だったが、母親が他界し、父親も精神に支障をきたして行方不明となり、2010年から難民キャンプ内の孤児院で生活。
- 2018年から、姉2人はUNHCR 提供の現在の家に住み、休日に下の兄弟に会いに孤児院に通っていることなどを話してくれた。下の兄弟は13歳、10歳、8歳。
- また、家の中も見学させてもらい、最後にMISIA 理事が将来の夢を尋ねると「看護師」と答えてくれた。

➤ コンゴ民主共和国から難民一家

- 2015年からこの地域に居住しているコンゴ民主共和国からの難民一家で、52歳の祖母と、二人の娘、その3人の子どもの6人で生活している住宅だった。
- 祖母の夫は亡くなり、祖母自身はHIVの陽性。家族で細々と農業を行い、豆や炭を売って生計を立てている。炭は一度に800円ほどになるとのこと。
- キャンプ内でも部族対立が発生して、居住地区を移動。家の屋根も藁でできており、改良、増築などを常に行ないながら暮らしているとのことだった。



JICA ミッション ザンビア視察

難民キャンプ教育施設

8月1日(木)

@メヘバ

- メヘバキャンプ内にある初等学校と中等学校を視察。
- JICA の青年海外協力隊の女性2名派遣されており、それぞれの学校で教師として授業を受け持っている。
- この学校はいずれも優秀な成績を収めており、ザンビア人も通っている。
- ザンビア人、元難民、難民とさまざまな事情を持つ子どもたちがいるため、子どもたちの中にも貧富の差がある。
- 初等教育は無償ということもあり、ほとんどの子どもたちが学校に通うことが可能。
- 中等学校では制服を自分で用意する必要があるなど、ある程度の費用がかかり、安定した生活が難しい難民・元難民は進学率は高くないのが現状。
- 特にアフリカでの教育支援を続けてきたMISIA理事は学校の視察を熱心に行い、「学んでいる子どもたちは楽しそうであり、どのような状況でも、やはり教育には希望があることを再確認した」と話した。
- また、様々な事情を抱え、国籍も環境も違う子どもたちがともに学び遊んでいる姿を見て「社会は本来このように差別なくあるべき。難民を考えることは世界の平和を考えることなのだと実感した」とインタビューに答えている。



JICA ミッション ザンビア視察

難民キャンプ教育施設

中等学校

8月1日(木)

@メヘバ

- メヘバA 中等学校で、この学校には日本の中学校から高校に当たる生徒約800人が在籍している。
- 生徒の割合は、約15 パーセントがアンゴラ、ウガンダなどからの難民、元難民であり、残りの85 パーセントがザンビア人となっている。この中等学校は、地域でも優秀な学校とされており、通ってくるザンビア人もいるが、難民との間の貧困格差などもある。
- 中等学校前で歌の歓迎を受けたMISIA 理事、浅田理事は、パソコンの授業を担当する森下未央ジュニアボランティア（JV）の授業を視察。
- パソコンの授業はザンビアでは必須科目とされており、ここでは寄付を受けたパソコンを使って、ソーラーパネルの電力を用いながらパソコンを稼働させている。
- 授業ではパソコンの使い方の復習を説明したのち、課題として作成したポスターとその内容を生徒たちがそれぞれに発表。
- 発表が終わるごとに生徒から拍手がおき両理事も教室内を回りながら授業の様子を見学した。



JICA ミッション ザンビア視察

難民キャンプ教育施設

初等学校

8月1日(木)

@メヘバ

- 隣の敷地にあるメヘバA 初等学校を訪問。この学校では、日本の小学生から中学生に当たる児童・生徒約700 人が学んでいる。生徒の割合は中等学校とは逆で、難民・元難民が約70%、ザンビア人が約30%となる。
- 初等学校では、同じく青年海外協力隊の大倉優枝JV がExpressive Arts（日本の音楽、体育、図工に当たる授業）クラスを担当しており、MISIA 理事、浅田理事の見学時には、最初にカードを使って掛け算の練習を実施していた。
- その後、サプライズでMISIA 理事の歌を子供達が歌唱。MISIA 理事も前に出て一緒にリズムを取るなど、子どもたちと触れ合いながら授業を体験した。
- 授業後は、初等学校の校長からの聞き取りを行った。主な問題としては以下。
 - 電力が常に不足している。
 - IT技術を使ったセキュリティ管理が難しいため、パソコンなどの貴重品を管理できず保管場所に苦労している。
 - 運営資金が足りない。
 - 僻地のため教師が不足しており、高い賃金を払うことが難しいため、呼び込みもできない。



JICA ミッション ザンビア視察

難民キャンプ教育施設
8月1日(木)
@メヘバ

- 見学後は子どもたちによるダンスと歌が披露された。子どもたちはこの日のために練習を重ねており、様々な歌や、時には劇のようなパフォーマンスも披露してくれた。
- そして、森下JV が教えた「よさこい」を踊ったのち、MISIA 理事の楽曲に合わせたダンスも披露。両理事とも子どもたちからの歓迎を存分に楽しんでいた。
- 中等学校に戻る道で建設途中の建物も見学。この施設は、体育館のように子どもたちが集まる場として、親などからの寄付や自治体の支援で建設が進められていたが、支援がストップしたために建設も中断。訪れた際は、工事途中の建物の中で試験が行われていた。
- 2人の女性JV は学校の近くで、電気や水道のない日本とは比べられないほど過酷な環境で生活しており、今回のMISIA 理事、浅田理事が励みになったと話すと、MISIA 理事が一連のお礼と励まし意味を込め、それぞれに絵本「ハートのレオナ」をプレゼントした。
- 最後にそれぞれの理事が子どもたちと会話をして交流を深めたのち、2日に渡る難民キャンプの視察を終えた。



JICA ミッション ザンビア視察

観光資源・産業

8月2日(金)

@リビングストン、ジンバブエ共和国

- ジンバブエ側から滝を視察。ザンビアとジンバブエの国境はヴィクトリアの滝へ流れるザンベジ川に沿っており、ジンバブエ側の土地の方が低いことから、滝の水量も異なる。
- ヴィクトリアの滝はザンビアの貴重な観光資源であり、ヘリコプターからの上空視察やザンベジ川のクルージングなど、アトラクションも豊富にある。
- また、ヴィクトリアの滝を利用した水力発電がザンビアの全電力の90パーセントを占め、最も南のヴィクトリアから首都ルサカ、さらに北部まで巨大な送電線を通して国の電力を支えている。
- 一方、雨季に雨が降らないと水量が下がることから一気に電力不足に陥り、今年は首都ルサカでも計画停電が毎日実施されているとのことだった。



JICA ミッション ザンビア視察

野生動物保護

8月3日(土)

@リビングストン、ルサカ

- 同地域にはサファリがあり、観光業も盛んな一方で、密猟問題も深刻化している。
- 周辺には密猟などで孤児となったゾウを保護して育てる施設があり、両理事もエサやりを体験。このアクティビティ料金でゾウを保護するための費用などをまかなっている。
- サファリ内では絶滅危惧種であるシロサイの保護活動も行われており、現在は13頭のサイをレンジャーが常に監視。
- レンジャーの案内のもと、車から降り、サイを間近で見ることができた。
- 生後まもない時期に人間が保護したため、人間に慣れており、一緒に歩くなどの貴重な体験が可能。
- ゾウと同じく、このアクティビティ料金でチーターたちの保護費用をまかなっている。
- 特に浅田理事は保護犬などの活動に熱心に取り組んでいるため、野生動物の保護活動を興味深く観察していた。



JICA ミッション ザンビア視察

乳児院
8月4日(日)
@ルサカ

- ルサカ市内にある乳児院「Houses of Moses（モーゼの家）」を視察。教会系の現地のNGOが運営し、アメリカやヨーロッパなどのドナーが運営を支援している。
- この乳児院には0歳から2歳の子どもたち約30人が生活しており、施設長から説明を受けた後に実際の生活スペースを訪問して子どもたちと触れ合った。
- 喫緊の課題として、服やタオルなどを選択する洗濯機や乾燥機が圧倒的に不足しており、毎日何度も洗濯をしても間に合わず、さらに雨季になると洗濯物が乾かせない状況などの説明を受けた。
- その後、同じ系列の孤児院「Bill and Bette Bryant」も訪問。ここは少し年齢の高い2歳から6歳までの子ども約30人が生活する施設で、同じく施設内の見学を実施した。
- ここでは、乳児院、孤児院ともに、里親探しに力を入れており、6歳ごろまでにはほぼ全ての子どもたちが両親や親族へ戻ったり、里親に引き取られているとのことだった。
- 里親はザンビア人が多く、自分の子どもがいても、施設の子どもを引き取るなど、孤児の問題に対する関心の高さが見て取れた。さらに、施設を出ても、スタッフが保護先を定期的に訪ねて子どもたちの様子を確認するなど、アフターケアを欠かさず行っている現状も説明された。



TICAD7 LIVE HEART FOR AFRICA

8月28日(水)
@横浜・みなとみらいホール

- TICAD7が開幕した初日の28日、MISIAは会場に隣接するみなとみらいホールで「TICAD7サイドイベント」として開催されたチャリティライブに出演。
- 日本とアフリカについて考えるきっかけとなることを願い、MISIAはステージ上でTICAD7の意義や、視察したザンビアの現状などを紹介。
- TICAD7イメージソングの「AMAZING LIFE」や、「MAWAREMARE」などアフリカと関わりの深い楽曲を披露した。
- 後半にはスペシャルゲストとして同じくアフリカをリスペクトし続ける歌手の久保田利伸さんを迎え、圧倒的なコラボレーションに会場也大歓声に包まれた。
- このライブのチケット代は全額TICAD7の開催趣旨に沿った活動に寄付されることになっている。



取材媒体 テレビ・ラジオ

➤ テレビ

6月17日(月)20:00～	NHK国際放送局「Newsroom Tokyo」	NHK	上智大学講演会
8月29日(木)22:00～	BS日テレ「深層NEWS」	BS日テレ	歌手MISIAが涙で語る 「アフリカとつながる ～いま伝えたいこと」

- NHK WORLDでは、上智大学の講演でモデレーターも務めた道傳愛子氏がインタビュアーとなり、インタビューが行われた。講演の様子も含めた特集は全編英語で世界中に配信された。
- BS日テレでは、報道番組で初めてスタジオ出演を行い、MISIA理事自ら、ザンビアの視察で感じたことや、アフリカへの思いなどを語り、大きな反響を得た。
- この番組は、公式HPで放送後約10日間にわたって配信もされ、さらに多くの視聴者に届けることができた。

➤ ラジオ

8月27日(火)	NHK WORLD JAPAN	NHK	6月17日(月)20:00～NHK国際放送局 「Newsroom Tokyo」をラジオ用にリメイク
----------	-----------------	-----	--

取材媒体 新聞

3月28日(木)	神奈川新聞朝刊	神奈川新聞・横浜市	4面 アフリカへの思いを歌にのせて
7月18日(木)	少年写真新聞	株式会社少年新聞社	TICAD7名誉大使
7月31日(水)	西日本新聞朝刊	西日本新聞	24面 「リアルなアフリカ知って」
7月31日(水)	スポーツ報知	スポーツ報知	20面 MISIAが社会貢献活動のススメ
8月1日(木)	広報よこはま8月号	横浜市	15面 横浜から世界に平和のメッセージを
8月15日(木)	朝日新聞朝刊	朝日新聞	6面 アフリカ ありのままを見て欲しい
8月23日(金)	朝日小学生新聞	朝日学生新聞社	1面 学校に通う幸せかなえてあげたい
8月25日(日)	朝日中高生新聞	朝日学生新聞社	2面 命がけで生きる人に教わる
8月27日(火)	the japan times	the japan times	2面 A messenger in name and actions
9月14日(土)	西日本新聞朝刊	西日本新聞	4面 アフリカをもっと身近に アフリカをもっと子どもたちに
9月15日(日)	西日本新聞朝刊	西日本新聞	1面 春秋（編集後記）

取材媒体 雑誌

7月1日(月)	ユニセフニュース（夏号）	UNICEF協会	P.6-P.7 「for every child」
7月12日(金)	オズマガジン	スターツ出版	P.110インタビューMISIA初の絵本で真のアフリカを伝える
7月20日(土)	メトロミニッツ	スターツ出版	P.50-P.51 「MISIAさんインタビュー今、一番伝えたいアフリカの物語」
7月31日(水)	外交 vol.56 Jul./Aug.2019	都市出版株式会社	P.6-P.11 巻頭インタビュー「アフリカがくれた生命のメッセージ」
8月5日(月)	AERA	朝日新聞出版	表紙・P.13・P.52-P.53 インタビュー『MISIAが伝えたい命のメッセージ』
8月13日(火)	週刊女性8月13日号	主婦と生活社	P.152-P.153 歌姫が紡いだ命のメッセージ
9月10日(火)	婦人公論	中央公論社	P116-P120 中村竜太郎の「会いたい人に会いに行く」ゲスト・MISIA「歌とは、幸せを願うこと」
10月1日(火)	CHANTO（チャント）	主婦と生活社	P.136-P.137 アフリカから届いた命のメッセージ ぜひ、大人にも読んでほしい
10月1日(火)	mundi No.73		P.36 ハートのレオナ紹介

取材媒体 Web配信記事

7月16日(火)	オズモール（連動Web）	スタート出版	【MISIAインタビュー】アフリカのリアルを詰め込んだMISIA初の絵本「ハートのレオナ」が完成！
7月31日(水)	西日本新聞 Web	西日本新聞	MISIAさん初の絵本 教育支援10年超「リアルなアフリカ知って」
8月13日(火)	週刊女性PRIME	主婦と生活社	MISIAが初の絵本から伝える、アフリカの「リアルな命」
8月15日(木)	朝日新聞デジタル	朝日新聞	（アフリカはいま T I C A D 7）アフリカ、ありのままを見て欲しい M I S I Aさんに聞く
8月15日(木)	朝日新聞デジタル	朝日新聞	M I S I Aさん、アフリカは「一緒に生きていく大陸」
8月26日(月)	LINEニュース「朝日こども新聞」	朝日学生新聞社	インタビュー「学校に通う幸せ かなえてあげたい」
8月27日(火)	the japan times Web	the japan times	A messenger in name and actions
9月10日(火)	婦人公論.jp	中央公論社	中村竜太郎の「会いたい人に会いに行く」ゲスト・MISIA「歌とは、幸せを願うこと」

取材媒体 HP、SNS

外務省 HP	https://www.mofa.go.jp/mofaj/
TICAD7 Facebook	https://www.facebook.com/TICAD7/
在ザンビア大使日本大使館	https://www.zm.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
JICA HP	https://www.jica.go.jp
JICA広報室Facebook	https://www.facebook.com/jicapr/
JICA PR Twitter	https://twitter.com/jica_direct
JICA Zambia office Facebook	https://www.facebook.com/JICAZAMBIAOFFICE/
UNHCR駐日事務所 Facebook	https://www.facebook.com/unhcrorjp/
UNHCR駐日事務所 Twitter	https://twitter.com/unhcr_tokyo
UNHCR Zambia Facebook	https://www.facebook.com/UnhcrZambia/
UNHCR Zambia Twitter	https://twitter.com/unhcrzambia